

氏 名 (学校名)	藤崎優香 (津田塾大学)	国 (希望する体験)	ミャンマー(就業体験)	企画テーマ	途上国でのビジネスの可能性
受入れ先	Opengate	期間	2019年8月1日～2019年8月26日	担当者	小沼 武彦 様
日付	体験日誌			日付	体験日誌
2019/8/1	朝8時着の便でヤンゴンに到着した。GRABタクシーを使って自分で会社に向かい、小沼さんが不在の間、他の社員さんをご飯を食べながらお互いのことについて話した。新たに二名の社員さんが加わるとのこと、毎週月曜日に行われるミーティングで自分の仕事が割り振られる。まずはミャンマーのことについて自分なりに歴史から現在の国際情勢など少しずつ知識を深めながら仕事に取り掛かれるようにしていく。また、自分の語学力を磨く絶好の機会だと捉え、恥じることなく積極的に自分から会話していく。夕方にはインターン応募者の書類を見て面接候補者を選ぶという業務を行った。自分に近い年のミャンマー人の子が何を得意として、何をもちえてここで働きたいと思っているのかを考えながら書類を読んだり考えるのが大変興味深かった。			2019/8/5	先日に引き続き午前中はインターン応募者の書類を見て面接の日程調整を行った。メールの送り方や書類の作成方法など、相手によってだいぶ印象が変わる。どんな内容にするか、どうしても伝えたいことが的確に伝わるか等、方法を知っているか否かで、雇ってもらえるかどうかという機会の格差がまた生まれるのかと考えると、何とも言えない気持ちでもあった。また、新しいスタッフの方とともに小沼さんとミーティングを行った。MBO (Management By Objective)に基づいて、自分がこの一か月で何を達成したくて、それがどう会社のニーズとマッチにしてい、さらにどう行動すれば一か月後の自分が成長しているか考えるきっかけとなった。用意してくださったシートを使ってこまめにコミュニケーションを取りながら一緒に考えていく。
2019/8/2	今日は撮影現場の見学に行った。今回の案件は、BBQショップのメニュー写真を一新するというもので、その撮影を行った。すべての料理が出てくるのを待たなければならぬため、大変時間がかかることがわかり、今まで当たり前に見てきた「メニュー」に対してこんなにもたくさんの人が作成に関わっているのだと感じることができた。一つの写真を撮るにも様々な角度や照明の工夫がされていて、多様な工程を見ることができ、良い機会となった。夜にはミャンマーで生活をしている日本人の学生や社会人の方々とカタンというゲームなどを通して親睦を深める時間をつくる事ができた。なぜミャンマーに自分がいるのか、何をしたいのか、自分自答しながらも他者の意見を聞く時間を作ってより考え方を広げていこうと考える。			2019/8/6	昨晩から考えていた自分の一か月の目標を決めながら、業務を進めた。自分の中にあるものを言語化していたつもりだったが、いざ定量・定性目標として振り分けてみるとなかなか出し切ることができなかった。だが抽象的な自分のイメージと具体的な数字が組み合わさることで、少しずつ自分の目指すゴールが見えてきた。最後に、自分のこのインターン生活を通してどうしたいのか、という全体的なテーマを決めることで、最終日に振り返った時に自分の進んだ方向性が軸とどれくらいギャップがあるのかなどわかりやすくなった。ただ全体のテーマも抽象的だからこそすべてを包摂するのが難しい。また昼食時にミャンマー語を教わるのも少しずつ定着してきた。英語での会話も楽しみつつ、ミャンマー生活だからこそ、新しい言語も前向きに学んでいく。
2019/8/3	先日の勤務中にシュエダゴン・パゴダに行きたいとぼろっと口に出したのがきっかけでオフィスにいる同い年のHtooが連れていってくれた。ミャンマーの伝統衣装であるロンジーをプレゼントしてくれて、観光を楽しむことができた。ドネーション文化が根深いため、お祈りと一緒に仏像に金箔を張り付けける人も多く、いつでも金色の状態を保つことができるそう。ただ日本では考えられないようなLEDの装飾が数多くあり、伝統と現代技術が融合したような不思議な光景だった。また探検で入るのがルールだが、雨でも地面に座っていてその信仰心に感銘を受けた。その後も一緒にミャンマー料理を食べるなど距離を縮めることができた。最初の週末は一人で家にいることになってしまうのではないかとという不安を素敵な思い出に変えてくれたHtooに感謝しかない。			2019/8/7	初めて「営業」の仕事を見た。アジアのラスト・フロンティアと言われていただけあって様々な国が進出しているのだからわかる。インドなまりの英語は大変聞きづらく、改めて海外で自分が主体となってビジネスをはじめることの難しさを知った。また相手に勢いよく話され、気付かないうちになんとなく話が進み、最後に何も返答ができずに、相手に下に見られてしまった。価格交渉などの場面でそういった印象を相手に見せしめてしまうと、自分の持っている力からずれてしまう。言語は意思疎通の手段として絶対的に習得しなければと身染みて感じた。英語が公用語ではない国では加えて現地語も必要になる。自分もいずれフィールドを公明たら小沼さんのように現地語でもコミュニケーションが取れて信頼を得られるよう今からその姿勢を学んでいく。
2019/8/4	他企業のインターン生が訪ねてきてくれたことがきっかけで、学生同士の関係が広がり、日本人の学生とミャンマーでつながりを持つことができた。みんな年上だが、年齢を気にせずお互いのバックグラウンドや現在活動していることを共有できる。自分とは全く関係のない専門分野を持つ人から聞く話は大変興味深く、自分も何か一つ「これを勉強した」と言えるようになると思った。昼食後はロンジーを生地から選んで自分用に採寸して作れるというローカルショップに行き、実際に縫ってくれる人たちと話をしながら注文することができた。女性陣にとっては夢のような場所、たくさん生地に関まれながら楽しめる楽しい時間だった。彼らからもローカルな場所をどんどん探索して、ミャンマーだからこそ体験できることにチャレンジしていく。			2019/8/8	今日もし撮影現場へ。まだオープンしていないお店の撮影で、再度メニューの撮り直しや付け加えを行った。夜にはウェルカムパーティーを会社で開いていただき、より親睦を深めるきっかけとなった。そのときのスタッフのひととの会話で考えたのは、自分の今の状況がいかに恵まれているかということだ。彼らが今の私と同じ19歳の頃、海外に行くなんて考えることもなかったし、またできなかった、と言われた。また教師の全体的なレベルが教科書よりも低いがために、勉強をうまく教えることができず、たとえ出来の悪い生徒がいても単位がもらえてしまう状況が今のミャンマーにはあることを知った。この時の感情をまだうまく言葉にすることはできず、ただただ涙が止まらなかった。時間をかけてでもちゃんと言葉に変えて忘れないうちに心に留めておく。
				2019/8/9	かつての軍事政権時代、民政移管後、現代と歴史を学びながら、ロヒンギャなどの少数民族問題について知識がついてきた。海外はよく日本が動きで多いと疎い私にとって日々つづくの国を知ろうとする時間は大変身になっている。これまで「途上国」という単語のイメージが強かった分、実際に足を運び直接声を聞くことで、今までになく納得感や新たな疑問がたくさん生まれてくる。今「途上国」と聞いてどう考えるかとオフィスの一人に尋ねたところ、「自分たちの中に古くからの伝統や慣習など生活に根付いたものがあり、そのような考えと自分たちのイメージしている将来的な目標とのギャップが大きい国のこと」だと言っていた。これは、途上国という単語に対してすっぴりと自分の中に落とし込まれる新しくもあり納得できる考え方だった。
				2019/8/10	週末はローカルツアーを計画して、夜行バスでインレー湖に向かった。まずNyaunshueという場所に日本人夫婦が開いたコミュニティづくりをベースにしたコーヒー屋さん兼旅行会社を訪問。現地のスタッフと一緒に「また戻ってきたくなるような場所」を目指したHOMEという店名がとても素敵だった。他にもたくさんさんの社会人の方と出会うことができ、ミャンマーの発展を願い、そしてこの地を好きになって留まる方々の気持ちがいかに少なかった気がする。だが自分はまだ未知の国への好奇心が強く、具体的な考えがまだない。それでも周りに流されるのではなく、自分のやり方を少しずつ見つけてこの分野に携わっていきたい。ボートで湖を縦断した後は現地の猫保護施設を訪ねるなど、ミャンマーにおけるNGOの取り組みも垣間見ることができた。
				2019/8/11	二日目のマンダレーは天気も良く湿気のない過ごしやすい気候だった。ここはヤンゴンよりごみの分別が進んでおり、町中でゴミが捨てられている光景はほとんど見ていない。マンダレーヒルから見る絶景はいつまでも見ていられるほどだった。また、ロンジーを織っている服飾工場を見学し、彼らたちが素晴らしい技術を目の当たりにして、手に職をもつ人のかつこよさを肌で感じながら、もっと彼らの商品価値を上げるべきなのではと考えた。物価が違う分価値観も違ってたたり前なのだが、暑い中汗水流して働く彼女らを知ってから見るロンジーは全くの別物に見える。現地のネイルサロンにも行き、新しい角度から日本とミャンマーの違いを発見できた。突然の雷やホテルでトラブルはあったものの、ここに住みたいと思えるほど素敵な街並みを感じることができた。
受入れ先 担当者の コメント	自分自身の方向性、主体性、自分事がしっかりと認識して、どのように異文化の方々とお仕事を動めていくか、協力していくか、バックグラウンドが異なる日本人との交流、大きな変化が合ったと思います。「不安」が大きかったと思いますが、実際にその不安を見つめて、その不安は何なのかと自分自身でメタ認知する必要がある過だったと思います。漠然とした内容・指示の中でどのように行動指針をたてるのか、今までのアルバイト、環境とは異なっていたと思いますが、良い週になっていれば嬉しいですね。			受入れ先 担当者の コメント	自分自身が想像している「途上国」やバイアスが入っていた先入観が少しずつぐれていった週になったのではないのでしょうか。日本に生まれた場合、軍事政権下で育った同僚達と比べると圧倒的に教育環境があり、その教育環境があったからこそ、僕たちは何かしらのインパクトを社会に残していく必要があると考えています。弊社の同僚達は、スキルの高い子たちがたくさんいますが、時給換算すると、1時間あたり100-200円の子たちもいます。それでも弊社では、まだ多めに支払っている企業なのですが、何もしないでも、スキルがなくても1000円が保証されている日本などは大きく環境が異なります。国際開発の分野で働く、日本人であることからある程度は給与が確約されていますが、現地スタッフの方がアウトプットが高い場合が往々にしてあります。その環境の中で、自分がマネージャー、現地責任者として赴任された際、自分にスキルがないと、組織に貢献できないどころか自分のせいでお金が無駄に流れ、アウトプットの質が下がります。そんな環境がある中で、どのような介入価値、付加価値をだせるか、組織の中でどのような円滑油、触媒になれるのか考えられるきっかけになった週だと嬉しいです。
1週間の 感想と 今後の目 標	まだ到着してから数日で、わからないことがほとんどだが、社員の方々と新しく入る方と馴染んでいく期間になった。まずはこの週末で観光を楽しみたいながらも体調を整え、環境の変化に負けないようにする。みんな優しくわからないことは丁寧に教えてくれる。英語も最後まで聞き取ろうとしてくれるのでよく頑張ろうと思える。日本にいるときは、語学が堪能な日本人の前でいらない恥を感じてしまう。それがこのような英語を話す機会での成長を一番助けている人は。誰にでも「できない」という時間を経験した過去があるはずだから、この一か月は絶対に悪い癖が出ないように、まずはミャンマーでの生活を自分で体験しながら自分のやりたいこと、できることを探していく。			1週間の 感想と 今後の目 標	先週以上に同じオフィスのミャンマー人スタッフとコミュニケーションを取ることができ、毎日がとても楽しい。週末にはヤンゴンから離れた別の街を見学に行き、ミャンマーの温かい土地柄を肌で感じた。またお昼ご飯は毎日一緒に食べるため、お互いのことが少しずつわかるようになってきた。勤務中も相手がこの会社で何を担当し、今どんな作業を行っているのかを見させてもらった。自分が想像していたよりも高いレベルの作品が出来上がっていて、専門は違えど求める技術は積極的に見て聞いて学んでいく。ただ、まだ自分がいける存在価値を見出せず、なんとなく戸惑っている自分を感じているのも確かだ。仕事は与えられるものではなく探すものだから、今以上にアンテナを張って動くことを心掛ける。

氏 名 (学校名)	藤崎優香 (津田塾大学)	(国 (希望する体 験)	ミャンマー	企画テーマ	途上国でのビジネスの可能性
受入れ先	Opengate	期間	2019年8月1日～2019年8月26日	担当者	小沼彦彦様
日付	体験日誌			日付	体験日誌
2019/8/12	連休最終日は日本人の寄付金から成る船に乗り、ダラ地区の村を訪れた。高床式のような住居が並ぶ村は、泥だらけになって遊ぶ子どもたち、優しく手を振ってくれるお母さん、たくさん笑顔が溢れていて、自分がもし逆の立場だったらこんなにも純粋な笑顔を外国人に対して振りまけないと思った。また車直ぐこの村の人々は何に困っているんだろうと考えるともわかないと感じてしまった。確かに日本と比較したらトイレの整備不足、清潔な水道水にアクセスできないなど、あったら便利だと思うものはたくさんある。でもそれがない状態で今の今まで生きてきた人たちにとって、あるのが当たり前の世界で生きてきた私たちが考えることはすべて押し付けにすぎないのではないか。考えれば考えるほどそもそも「国際協力」ってなんだ？と疑問が止まらない。			2019/8/19	出国を目前にして断水が始まり、ここに至るようやくミャンマー生活を体験しているような気持ちだ。先週一週間は自分の存在価値に対してたくさん悩み、そのたびに自分の感情を言葉に変えてきた。言葉にすればするほど整理されると同時に結局解決に至るには何をすればいいのかと終わりの見えないサイクルにはまっていた。だが、この一瞬だけを見て目に見えるものを残そうとする私に、もっと先のことや違うものの見方を教えてくれる方々がたくさんいた。立てた目標が見え会社には関係のないように見えても、何かつながられる。そこで今度はスタッフたちの存在価値、普段何を考えてどう生活していて、今の会社の状況にどんな考えを持っているのか、一人ずつインビュー兼ディスカッションをはじめてみた。言葉にして考えること、また説明することを通して自分の仕事に対して一緒に疑問をもってさらに改善していきたい。
2019/8/13	今まで大学の教授や他機関にメールを送るとき、テンプレートを探してできるようになったつもりでいた。だが今回のアポ取りメールを通して読んでもらえるのかさえ不明な相手に、自分たちの強みや相手のニーズにどう応えるかを短い文章にせとめる難しさを知った。FABを意識してやるというアドバイスを元に、何度も作り直した。だが今日一日の自分を振り返ると、ただただ悩んでいただけで時間だけが過ぎていくようにも思える。まずは自分で知識を入れようとする、ネットで調べること。それでも見つけれず、5分悩んでわからないものはいつまでたってもわからないから聞け、常に行動→FEEDBACKの繰り返しだということを最初は忘れないように学んだ。自分で考えることも大切だが、時間をもっと有効に、大切に使えるように今後も意識し続けていく。			2019/8/20	相手のことを知らずすると相手も私を知ろうとしてくれる。仕事に対して色々聞いた後は自然に会社や普段の生活で困っていることに移り、そのうち宗教や伝統といった文化的なものにまで話は進んでいく。私もそつだが、彼らにとっても自分の国の生活に根拠している所に意見を向けることが少ないため、私自身簡単に答えられない質問に対して一緒に悩み、考えることができた。そもそも彼らは自国をいわず「途上国」として見ているのか、現在問題視されている少数民族問題などはどう受け止めているのか、今後の自分たちの将来予想図などもどんなものか。環境が違えば出てくる意見ももちろん違う。相手の話も聞きながら自分と比較して、また自身について考え直すというルーティンが、改めて自分を見つめ直す時間へとつながっていった。聞いた話をもっと自分の言葉にして解釈をし、文字としてまとめておこうと考える。
2019/8/14	インターンも折り返し地点に差し掛かり、自分のやっていることやそもそもそのミャンマーに来た目的について悩んでしまった。NP0・NG0サポートの国際協力からビジネス側に方向転換をした小沼さんの会社では、自分たちの技術や結果がマイクロファイナンスというやり方を通して相手にプラスに動くという仕組みなため、目の前でやっている作業がどう繋がっているのかがすぐに可視化できない。それはもちろんわかり切ったことで、ビジネス側の観点を見てみたかったのが自分の希望だ。だが自分が突然行動できないという事実が悔しかった。お給料はもらっていないが、自分がお金をもっとやる仕事と、そのお給料分を直接支援が必要な地域に寄付するのとではどれだけ自分があることの方に大きく存在価値を出せるのかという点について考えを深めていく。			2019/8/21	19歳最後の一日をどう過ごすか考えながら、少しずつインターンを振り返りつつ今後の自分の将来を考えていた。すると先日営業メールを送った相手から返信があり、ぜひ一度ミーティングをさせてほしいという趣旨の連絡がもつた。私は営業が初めてで、100通送って1通返ってくるかどうかと言われている中でとても嬉しかった。ただ実際に会うのは私が帰国してからになってしまった。この件に関してしっかり頼れるスタッフに引き継ぎを行なった。だが嬉しい反面、営業も自分でやってみたいのが本音だ。あのときも自分が早く独立してみたい、早く帰国してみたい、と考えると悔しい気持ちの方が大きい。とにかく悩む前に行動してみること、この大切な身に染みて考えさせられた。ここでのプラスの感情も悔いとも、忘れないようにしっかりと記録しておこうと思う。一つでも形として残るのができ、少し自信につながった。
2019/8/15	今日は営業を実践し、自分に何ができてこのポジションには何が求められているのかを考える機会をいただいた。訪問前には何より前だが下調べが必要だ。相手の会社の情報や雰囲気、FBやWEBの活用、広報状況などから、相手のニーズをより深く探ることが大切だと学んだ。ある程度の法則は学ぶことができたが、相手のリジナルを深く表現がまだ形になっていない。そこで、新しいPPTを作成することで営業の新しい形を考えられるかもしれないと思い作り始めた。今日は数字をあまりデータ化しないために情報が少ないが、顧客側との協力も今後必要になっていくはずだ。日系企業にもより効果的に宣伝していけるように数字をしっかりと出せるような仕組みや現状の打開案を作りたい。			2019/8/22	オフィスの子の撮影の付き添いをした帰り道にタクシーで帰っていたところ、停車したとたんバスに後ろから突っ込まれた。一瞬三途の川が見えたような気もしたが、ケガもなく済んでよかった。ヤンゴンにはバイクが禁止されているが、車が突っ込む危険な移動をしているため最後まで気を抜かないで生活していく。また今日は誕生日だったこともあり、あみだくじの反省会の後サファティで誕生日会を開いてくれた。20歳という節目の年にこうして異国の地で出会って間もない私に温かくお祝いしてくださった仲間に出会えて本当に幸せ者だ。こちらではバースデーケーキといって誕生日の人がプレゼントをする習慣もあり、オフィスの皆にも小さなケーキを用意した。祝ってもらえることを当たり前だと思わず、周囲の人や親に改めて感謝を伝えようと思った。そして今日がみなさんと会える最後の日になる人が多く、とにかく感謝をいっぱいいただいた。
2019/8/16	カタンというボードゲームが流行っており、ミャンマー在住の学生・社会人を中心に大会への準備が着々と進められている。これも彼らが主催する国際交流の一つだ。こちらでも短期滞在の私にできることを考えながら環境を活用していく。みな忙しい中話し合いを重ねており、ここでも距離が近い日本人ミユニティがそばにあるのが大変強い。またそれは別に、ここに出会う人々と自分とのギャップが大きく思えてきて、私も早くフィールドを決めなければ焦ってしまう。でも自分は流されない。今日の前にいる人たちがたまたま少し若い段階で決断するきっかけがあっただけで、私がもっと違う世界を見たいと思うのも決して間違っているはずだ。周囲の声を聞くことも大切だと思うが、自分の意見もはっきり出せるように頑張る。			2019/8/23	今日は前回の営業先にリベンジに向かった。他の会社ならあり得ないが、私が滞在していた部屋の持ち主が違う会社を経営しており、練習先として来てほしいよと声をかけてくれたのだ。もちろん練習とはいえず、私の営業内容によっては契約も考えてくれるとのこと、前回の先方からのFBを文字起こしし、自分が今回の営業ではどのようにアプローチを覚えていかなければならないのかを何度もシミュレーションした。また自分が押し付けるのではなく、相手に口を開き、話をしてもらうように、相談に乗るイメージを心掛けた。結果として、価格とはおまか動画を2本取りたいとおっしゃってくれた。今後どう工夫したら双方に利益があるプランになるかをまた具体的に決め、私がいなくてもこの契約がしっかりと継続されるようにオフィスの子に引き継いでしたい。
2019/8/17	留学やインターンで長期滞在中の学生さんたちが創るツアー「ミャンマーを愛で満ちたい」連絡あいだに参加。築地のような場所で魚を購入して地元のお店で調理してもらったり、ミャンマー語を使って市場でミッションを達成したりなど運営側も参加者側も一緒に頑張って全力で楽しめる時間になった。普段は違う場所で頑張っている学生たちが一つの場所に集まって一つのものを作り上げる姿はとにかくキラキラしていた。私も自分一つでも二つでもプラスαで自分ができること、仲間がいるからこそ成し遂げられる行動を起こしたいと思うきっかけをもらった。大人と違って普段の生活より近い距離で物事に向き合える学生の時間はいつも一緒に上を目指せる気がして、未来を押し付けられるよりもその瞬間を全力で生きるほうが自分にとって合っていると感じた。			2019/8/24	最後の週末はバガニに旅行へ。ここは世界遺産の一つで、あみだメンバーさんたちと一緒に観光してきた。一人はなんと同じ大学の方で、異国の地でまさか出会うかと思っておらず、その行動力に私も負けていられないと刺激を受けた。以前訪れたマンダレーやインレー湖とはまた変わって、まるでアフリカの草原にあるような遠距離群が都市部では感じられない異空間を醸し出していた。時期の影響なのか観光客もほとんどおらず、ゆっくりとした時の流れの中、モロイで敷敷できた。博物館に行くと歴史を見ながら遺跡をはしごする一日だった。まだ人の手がいい意味で入っていないため、それぞれの場所に違う趣を感じられた。同じような建物ばかりでつまらないと聞いていたが、想像以上に楽しむことができ、緑一杯の空間に心が浄化される時間をすごした。
2019/8/18	もっとツアーでの出会いを大切にしたいと思い、二日連続の参加を決めた。今日は社会人の方も一緒にミャンマー人の溢れ出る優しさを一緒に肌で感じた。私も運営側のミーティングに参加し、大人顔負けの用意周到なガイドの裏の数々ない準備を目の当たりにした。が、難しさを知ると同時にツアー作りが大変興味を惹かれた。また以前駐在員として滞っていた日本人に会う機会があったので、早く日本に帰りたい、ミャンマーは嫌いだ、という発言も耳にした。確かに日本に比べて少し不便なこと多いかもしれない。停電や断水、渋滞は日常茶飯事だ。でも、そんな自分の意志でここにいるわけではない人にも、このあじさいツアーにぜひとも参加してもらい一緒に愛に溢れるミャンマーを見たい。帰るのが名残惜しくなくような、そんな時間に必ずなる。			2019/8/25	漆器が有名なバガンでは工芸品を売っている所が多く、今回は運良くその製造工場を併設しているお店を直接見学することができた。自分たちだけで景色や建物を楽しむのでもいいが、やはり現地の方と直接話すことでより詳しく知ることができ、また雑談だけでもその中で記憶に残りやすい。観光客相手にも優しく丁寧に解説してくれた。また海外からのボランティアスタッフが短期滞在でゲストハウスを運営しており、世界各国から集まる様子を見るのもミャンマーもどんな観光客が増えたいんだろうと思った。今後どれだけ人の出入りが増えようとも、今ある自然や建物をそのままだに、もっとこの美しさを広めていけるよう自分も発信していこうと考える。また気球が嵐が乾期になったからゆっくりここで過ごしたい。最後の週末にまた素敵な思い出を増やすことができた。
受入れ先 担当者の コメント	ハードスキルがないのは当たり前でそこは特段重要じゃないと考えています。現状必要なのは、藤崎さんが世界を、自分の認識をどのような色眼鏡で見ているのか、自分自身をメタ認知することと考えています。NG0、NP0サイド、ビジネスサイド、行政、すべて自分自身、組織が目指す世界観を作るために皆さん必死に働いています。みなさん、本当に一生懸命、人々のために、社会のために全力で仕事をしています。その中で、藤崎さんは嫌いだ、という発言も耳にした。確かに日本に比べて少し不便なこと多いかもしれない。停電や断水、渋滞は日常茶飯事だ。でも、そんな自分の意志でここにいるわけではない人にも、このあじさいツアーにぜひとも参加してもらい一緒に愛に溢れるミャンマーを見たい。帰るのが名残惜しくなくような、そんな時間に必ずなる。			受入れ先 担当者の コメント	お疲れ様でした。正直、ビジネスなどはどうでもよくて、藤崎さんはどんなことを、誰に、どのような形で介在していきたいんだろうね。何を、どのようなことをしたいんだろうね。世界にでる必要性ってあるのかな？日本も良いない？野田で良いよ。みたいな嫌な質問、自分と向き合えるようになるまで誰に対しても良いことできると思うんだよな。カズさんのお店にはどのようなメニューを提供できるんだろうね？スタバのバイトで、どのような体験をお客様に提供できるんだろうね。基本的にはすべてお客様、関係者にとって良いことをすると自分も感謝されるし嬉しいと思うんだよな。ただ、それをどのような温度感、立場でやるのが藤崎さんにとってしっくりくるんだろうね。自分自身の場所をどうやって定義していくんだろう。例えば、ベネッセみたいな会社を作っても、人々の可能性を開くビジネスをやるのは藤崎さんにとって幸せなのか？それとも救済の上にたって、毎年何人かの人生の可能性を開くのが良いのか？結局は、自分自身の考えについて、大目も日々自分自身で考えているんだよな。いつも自分自身の場所だった。立場、だっさり、温度感っていうのを意識できるようにならなきゃ、愚痴って人生終わっちゃうので、メタ認知がっすり、自分自身と向き合う癖がつけるインターンになってたら嬉しいです。お疲れ様。辛かっただろうし、疲れたね笑。ただ、その中でいるんな感情が将来大きく繋がって、藤崎さんが大きな大きな影響を作れるような方になつたら嬉しいです。まだ一緒にになかできると嬉しいです。貴重な人生の時間をみんなに、会社に、僕にあずけてくれてありがとう。
1週間の 感想と 今後の目 標	この一週間とはとにかく悩んだ。なんで自分はミャンマーにいるのか、何ができて、何をしたいのか。この短期間で何を学べるのか。ここに来る前の自分と帰国した後の自分は絶対に変わっているとは思っても、自分がいることでの会社に対する貢献できているのか、全く実感もイメージもわからなかった。無駄な時間はリミも少ないとも思っても、昨日の自分と今日の自分で一体何をどう成長できたのか、ととにかく不安と無力さからあふれる悔しさが涙が止まらなかった。だが毎日明け方まで自問自答したり誰かと話して自分の感情を言葉に変えていくことで、今の自分には課題発見能力、またその課題が本当に課題なのか？と考えられる力が足りたことに気付いた。最後の一週間、また今後につながるの目標として、自分がこのコミュニティの中で自分の存在価値を見出せるか、スタッフのみんなとのコミュニケーションを通じて私が見えない彼らの関係性やよりよいチームワークを築き上げる力の一つになっていきたい。			1週間の 感想と 今後の目 標	初日の不安が昨日のことのように思えるくらいあっという間にすぎた一か月だった。ミャンマーで生活している学生、社会人の方最良30人と話をすることで目標の一つだったのが、結果49人の日本人と出会い、25人の日本人の方々とお互いの込み入った話をすることで輪を広げられた。私はまだどこか特定の地域に拠点を置いて活動したいかと思える場所はないのだが、今回のミャンマー生活は間違いなく今後の自分の人生の中で重要な場所として生きていくことになる。ここに出会った人たちに一つもうすぐ自分は過去の人間となってしまうことが寂しくてもたないが、私も負けずに自分の場所でも自分を出していけるように、前に進んでいく。ここでの生活は何度も私に新しい疑問を生み出して、考え、そして自分の言葉に変えるというサイクルを私に与えてくれた。自分の考え方の根本に戻って改めて聞直すことは、僕にたくさん過ぎる日々を流れる私を引き止めてくれた。これを機に、もっと自分と対話を重ね世界への好奇心を多面的に感じ取れるように成長していく。辛かったが、毎日楽しかった。



# 総 評

- ◆氏 名： 藤崎 優香 (津田塾大学)
- ◆受け入れ先： Opengate
- ◆企画テーマ： 途上国でのビジネスの可能性
- ◆体験期間： 2019年8月1日～2019年8月26日

## <感想>

自分の目でミャンマーという国を見てみたい、という想いから始まった今回の挑戦でしたが、一か月という大変短い時間だったこともあり何度も何度も悩みました。なんでミャンマーに来たの?という質問に対し、ミャンマーを見てみたいという抽象的すぎる目的が、改めて自分に「なんでミャンマーにいるのか」「この会社には自分はどうか寄与していけるのか」「私がここにいる意味は何だろう」と自問自答を繰り返すきっかけとなり、特に環境に慣れて折り返し地点に立った頃は、とにかくもどかしくて、苦しくて、何もできない自分がただただ悔しい毎日でした。ただ私は自分の無力さを痛感しました。何もできない自分、行動に移せない自分、自分の存在価値を見出せない時間はとても長くて先が何も見えませんでした。最終的に、自分の視点だからこそ見える会社の課題、スタッフが抱える悩みや、今後会社がより前進していくに当たって一人ひとりがどう自分たちの業務と向き合わなければならないのかを見つけていこうと策を考えました。結果として、必然的にスタッフの方々と話す回数もこれまで以上に増え、業務内容を超えて自分の関心でもある国際協力についてディスカッションをしたり、他国から見る国際協力について新たな見方を吸収したりすることができました。ですが、国際協力という分野に関わるということは、同時にもっと自分をよく知り自分の意見を持ち、周りに流されない強い志が必要で、それが今の自分には足りないと感じました。業務をこなしていたというよりは、「できない自分」を通して自問自答を繰り返した毎日という表現の方が正しいかもしれません。また、週末は村にある NGO 訪問や地方への旅行、他にも現地在住の学生が運営しているツアーに参加するなど、インターンという枠組みを超えてミャンマーという国、ミャンマー人の優しさ、温かさに触れ、どんどんミャンマーに惹かれていきました。この一か月のミャンマー生活の中には辛いと感じるだけ楽しさもあり、毎日が濃くて充実した時間でした。最後に、このような機会を設けてくださったアジア体験コンテスト関係者の皆様をはじめ、温かく受け入れてくださった小沼さん、Opengate スタッフの皆様、ミャンマーでお世話になったすべての方々に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。また、必ずミャンマーに帰ります。

## <受け入れ先コメント>

受入れ担当者： 小沼 武彦 様 役職： 最高経営責任者

辛かったね。何もできなかったね。辛いよね。上司は、サポートしないし、ほったらかしだし。仕事は降ってくれないし。ミャンマー語、英語のみだから、仕事も作りづらいし。ただ、アクションの数は、もっと増やせたよね。多分、理解していたと思うけど、どうして行動しなきゃと思ってたけど、行動にすぐ起こせなかったんだろうね。代表が笑顔じゃないし、忙しいそうだからかな?心理的な距離が遠かったからかな?なんでなんだろうね。レポートの総括の内容が、自分へのベクトルが中心なのは、なんでなんだろうね。まあ自分に向き合うことがレポートなんだけどさ笑 構造的に仕方ない。まあそれは良いとして、やっぱりさ、向けるべきベクトルは、お客様とか社会に対してなんだよね。内向きより、外向きにすべきなんだよね。自分でもこう書いててさ、やっぱり自分のことは棚に上げてFB 書いているんだけどさ、難しいよね。これって。ただ、常に意識しないといろんなことがずれちゃうから藤崎さんには、軸を作ってほしいんだよね。頑張ってるほしいんだよね。スキルなんて後からついてくるからさ、まずはソフトを磨くことが大切だと思うのよ。どんな感情を持って、その感情はなんで作られているのかだったりとか、自分の好き嫌いのパターンとか色々見てほしいのよね。自分自身で。俺なんて正直わからんからさ、たった一ヶ月ばっちじゃ。藤崎さんの感情は、藤崎さんが一番理解しているからさ、そこを見つめてさ、今後の学業生活とかインターンとか仕事すれば良いと思うのよ。正解なんてなくて、みんなベクトルを調整しながら、生きているからさ、藤崎さんには自分自身のコンパスを持ってほしいのよ。なんかかっこよくいうと人生の羅針盤的な。自分の人生のキャプテンは、藤崎さん自身だからさ。どこと向かうのか、誰と向かうのか、自分自身の人生をどう航海するのか。そのために必要な心のコンパスを作れるきっかけになったインターンだと嬉しいです。辛かったね。お疲れ様。そしてありがとう。